

人間らしい生活を

炭労、いよいよ政策春闘へ



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
③3034番
編集兼 山下 開
発行
半年間600円 送料共



74・炭労九州春闘討論集会 (労働会館)

下からの意志統一を

まず取ろうインフレ手当

石油危機と重なってまき起った、物資の値上がり。春闘共闘委員会がはじ出した理論生計費は、夫婦と子供一人の四人世帯で月四十五万円。今こそ、長い年月、前時代的な資本の圧制と搾取で非人間的な生き方を強いられてきた炭鉱労働者として、「人間らしく生きる要求」をつきつけて闘いに立ちあがるときである。

消費者物価も たまたま暴騰

【連合】消費者物価の上昇は、一月、ついに20%を越えた。総理府がさきごろ発表したところによると、一月の東京都部の消費者物価は前年同月比で20.4%も暴騰、また昨年十二月に比べると4%も上昇、これは四十七年の年間上昇率(四・五%)に匹敵するもので、一カ月で一年間分の上昇という恐ろべきスピードで

物価が上昇していることなる。また、同時に発表された全国の消費者物価も、前年同月比で一九・一%と暴騰、その内容も大企業製品の値上げが目立っている。

導部電気分会職場新聞、交流、(N・O・四)の一記事が伝えた、その意欲である。

石炭危機のなかで、石炭の見直しということがいわれている。エネルギー危機の中とはいえ、石炭が再認識されたことは明るいことと進んでいる。

だが、石炭資本家にとっては、石炭を掘る、輸入制限が解かれたから、もう石炭はよい——では、余りにも一時的で、もうける資本家はよいとしても、労働者はたまったものではない。

限りある地球上のエネルギーの中でも、石油が最も短命だといわれている。石油に頼り切っていることを反省し、長期エネルギー政策を確立し、その中で石炭の占める位置を明らかにすべきだ。一時しのぎのための石炭増産要求をキツパリと拒否した、昨年末の炭労臨時大会は実に賢明であった。

政府の石炭政策は、石炭産業をつぶす中から石炭資本を救済する政策でしかなかった。政闘争はスクラップ(労働者)・アンド・ビルド(資本家)という皮肉な結果を招いた。

石炭資本は助成金の引き出しにけんめいとなり、三井はグリーンランドやボーリング場、ゴルフ場にはほとんど金を注入しても、石炭を活用する研究にはヒタ一文も使わぬ。石炭を社会的に活用するという企業努力の怠慢は、鋭く指摘されるべきだ。

われわれは政府の政策の欠陥、石炭資本の企業努力の無無、保安無視などをまず問題にしてこれを改めさせ、目先の一時的な欲に迷わず、他力本願でなく、自分たちの力で労働条件を闘い上げることがまず重要である。

右の一文は春闘とも強く関連しているが、今の場合きわめて重要な問題点を指摘しており、人間らしく生きるために闘う春闘を目前にしている炭鉱労働者として、充分考える必要がある。

世間なみの労働条件を 呼びかけよう新労との共闘

一月二十七日開催した中央委員会は、かねてからの期間をかけたの職場討議の末に固まった案を中心として討議した結果、福利厚生要求(すでにピラで発行)を決定した。

要求は、労働協約関係二十二項目、労働条件関係十三項目、労働環境関係七項目、福利厚生関係八項目、宮籍工事関係十項目、合計六十項目にのぼっているが、要求はこの三十一日までに現地会社側に提出を最終とした。

要求に託されているものは、いずれも三池炭鉱に働く全炭鉱労働者の切実なもので、それはアンテナをもつて集約された通り、三池炭組員ばかりでなく新労組員からの要求でもある点を見逃がすべきではない。

その他の産業労働者の労働条件に比べ、従来炭鉱労働者のそれはひどい差別待遇が押しつけられてきたばかりでなく、事実調査の結果が示しているように、三池炭鉱のそれは同じ炭鉱と比べても、えきわめてひどいことが明らかになってきた。従って三池炭鉱の全労働者が、「日本一のビルド」にふさわしい賃金と労働条件を保障せよ」と要求するのはきわめて当然なことである。

炭労、闘争方針確立へ

九州でも春闘討論集会

七四・炭労九州春闘討論集会は、去る三十一日大牟田労働会館に、三池炭組、高島炭組などから百人近くの労働者を結集して開催された。

集会には炭労中央から里本委員長に野呂事務局長ら各役員も参加

すでに発表された炭労の春闘方針案をめぐり討論を通じて、全炭鉱労働者の固い意志をもって春闘方針を一人ひとりのものにし、今年いよいよ重大化してきた春闘を、真に下からの団結を強めること闘うねらいをもって、意見を

出合った。この日里本委員長が明らかにした闘いの方向と背景の趣旨は、すでに職場に配布された一九七四年石炭政策・春闘方針案にはほぼ具体化されており、この際職場での十分な討議が期待されてきた。

職場に たぎる意欲

すでに、職場には春闘への意欲がたぎり立っている。次は宮浦指

何といつても闘いに立ちあがるには、下からの意志統一が求められるが、すでに炭労の「七四石炭政策・春闘方針」も明らかにされ、その前段闘争となる「インフレ手当闘争」方針も固まらいつあり、去る三十一日には里本・炭労委員長自身もかけつけて、「七四・九州炭労春闘討論集会」が行なわれるなど、急ピッチで大切な意志統一の歩みが始まった。